

会 議 録

会議の名称	補助金等見直し検討部会（第15回）
開催日時	平成23年10月25日（火） （午前・ 午後 ）4時00分 開会 （午前・ 午後 ）5時20分 閉会
開催場所	南館10階 大会議室
出席者	<p>【外部委員】 坪内隆、辻田素子、杉田宗三、棟田勝子</p> <p>【検討部会員】 楚和企画財政部長、秋元財政課長、小田地域教育振興課長、中村政策法務課長、大神人権・男女共生課長、上田政策企画課長、原田市民活動推進課長、寺内福祉政策課長、北川障害福祉課長、田川高齢介護課長、染川こども政策課長、吉田商工労政課長、小濱農林課長、島本環境政策課長、田邊都市政策課長、西村まちづくり支援課長、鎌谷道路交通課長、為乗学校教育推進課長、増田青少年課長、酒井スポーツ振興課長</p> <p>【作業部会員】 岩崎財政課係長、青木市民活動推進課長代理、中尾政策法務課係長、多田人権・男女共生課係長、松野福祉政策課長代理、成田障害福祉課長代理、村上高齢介護課係長、澤田こども政策課長代理、徳永商工労政課長代理、内田農林課係長、井澤環境政策課主査、福田まちづくり支援課長代理、砂金道路交通課係長、阿曾教育政策課主査、上田学校教育推進課主幹、小河地域教育振興課主査、加藤市民学習課係長、小島青少年課長代理、松澤スポーツ振興課係長、中井消防本部総務課参事、北川財政課職員、野村議会事務局総務課長代理</p>
欠席者	乾教育政策課長、池田市民学習課長、萩原消防総務課長、下園政策企画課長代理、岡田都市政策課係長
事務局職員	係員2人
開催形態	公開（傍聴者2人）
議題(案件)	(1) 茨木市提案公募型補助金（案）について (2) 既存補助金の見直し手順（案）について
配布資料	(1) 茨木市提案公募型補助金（案）について (2) 平成23年度既存補助金の見直し手順（案）

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
議 長 (企画財政部 長〔以下省略〕)	今回は2点について、審議していただきたい。今回は細かい所に行き、大きなところが見えにくくなってしまったので、今回は大筋を見ながら審議をお願いしたい。
作業部会員	【議題1 茨木市提案公募型補助金(案)について】 (資料1に沿って説明)
外部委員	既存の補助金はどのように整理されるのか、また、市の主催や共催による事業があるが、それらと補助との違いは何か、以上2点について教えてもらいたい。例えば、茨木フェスティバルはどのような運営方法なのか。
議 長	既存の補助金については、団体補助金を対象に、公益性の度合いや公平性の確保を視点を検証し、必要な場合は該当する提案公募型補助金に移行していく。 また、主催は、市が主体となり取り組む事業、共催は、市と団体が共に取り組む事業である。補助は、団体が主体となり取り組む事業であるが、公益性があるので市が支援するものである。 茨木フェスティバルは協会が運営主体となって実施しており、市は構成団体の一員として参画し、負担金を支出している。
外部委員	市の事業のアウトソーシング化を推進していくようにも感じられる。吹田市や箕面市はスタート支援や、小規模団体を支援しているが、市は外すという意図なのか。
作業部会員	提案公募型補助金全体の枠組みでみていく考えであり、初動期支援を外している訳ではない。
外部委員	実績を持つ団体が有利になるので、初動期支援などの別コースを作ってはどうか。
作業部会員	設立1年未満という線引きをすることも、検討要素であると考えている。
議 長	作業部会での案は、施策を推進する一手法として、自由テーマ型事業については積極的に制度を活用してもらいたいという意図である。
検討部会員	事業効果が高く、支援を継続すべきであると判断する事業については、市の

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	事業として委託することも想定されるので、そういったことも検討していきたい。
外部委員	補助率のB案にあるような、全額補助は補助金制度の性格上なじまないのではないか。
議 長	小規模な団体にも活躍してもらいたいと考えており、金額や補助金の性格を勘案しながら、検討していきたい。補助回数はどうか。
外部委員	A案がよいと思う。B案だと従来の補助金と同様の問題が続くおそれがある。
外部委員	活動実績や成果の検証を適切に行えば、制限無しでも良いと思う。
外部委員	資料3頁の実施フローに、実績報告会が示されているが、ここでは次年度への継続性も加味するのか。それとも、毎回新規の取扱いとなるのか。
作業部会員	柳川市の事例などを参考にしつつ、検討を進めていきたい。
議 長	補助回数に制限が無いと、既存の補助金と同様になってしまうので、実績報告会において効果を十分判定し、継続するかどうか判断するような形をとりたい。
外部委員	柳川市の事例の場合、担当課でチェックが入るので、選考委員会で否決されることは無いのではないか。
議 長	テーマ設定型事業で、1つのテーマに応募が1件だけなら、委員会で是非を決定することになるが、複数の提案であれば、審査をすることでより良いものを選ぶことができる。多くの団体から応募が出てくるよう働きかけていくことが必要だと考えている。
外部委員	テーマ設定型と自由テーマ型それぞれの予算額は。
議 長	今は分からない。どれだけの規模の事業を補助事業として活用するかで決まることとなる。

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
外部委員	仮に、中心市街地活性化に関する事業なら、補助額は 20 万円になるということか。
検討部会員	上限 20 万円の補助を 3 件実施できる予算を計上している。前年度の実績は 2 件である。
作業部会員	産業振興関係では、地域魅力アップイベント創出育成事業補助金が、上限 150 万円で 3 件、総額では 450 万円、産業活性化プロジェクト促進事業補助金が、上限 50 万円で 2 件、総額では 100 万円を予算計上している。具体的には、茨木音楽祭や茨木産の芋を使用した焼酎作りなどがある。
外部委員	補助回数が 3 回までの場合、4 回目以降は自立して実施していくということになるが、やって行けるかどうか不安になる。
作業部会員	未来永劫ということは考えていない。主体的な事業として実施してもらう以上は、収益を上げる自助努力も必要だと考える。まだ検討段階ではあるが、補助回数についても検討を重ねる。
議 長	自立してもらうことが、基本である。そのための団体による改善も必要である。また、税金を活用する以上は、効果を検証しながら実施していくものと考えている。補助回数については、整理し、提案する。
議 長	様々なご意見をいただいたが、大筋はこの案に基づいて進めていきたい。
	【議題 2 既存補助金の見直し手順（案）について】
作業部会員	(資料 2 に沿って説明) なお、(仮称)補助金ガイドラインの策定は、今年度の目標である。
外部委員	既存補助金の問題点は、どうして分かったのか。また、どうして生じたのか。
作業部会員	既存補助金の問題は、今回から始まったものではない。相手方の予算との兼ね合いから継続的になり、個別には見直しに踏み切れなかった。そこで、今回一斉に見直していきたい。
外部委員	公平性を確保するためには、各団体に十分周知されるかどうか重要である。口コミのようにしか伝わらなければ、申請さえできないおそれがある。

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
作業部会員	周知の必要性は市としても認識しており、今回の見直しの中で併せて検討していきたい。
外部委員	橋下知事のように外郭団体を全て切り離していく姿勢に見える。市がやるべきことの有効性と、このガイドラインとの接点は何か。公益性等は、これまでの補助対象事業にも含まれていたはずである。焼き直しをしても意味が無いのではないか。
検討部会員	多種多様化している補助金を「より良いもの」とするためには、統一的な基準が必要であるとの考えが根底にある。自由テーマ型事業と併せて取組むことで、補助金の適正化を進めていきたい。
議 長	財政が厳しいとの認識はあるが、それが見直しの要因ではない。公益性、公平性、有効性の3つの視点を基に、判断基準を作ろうとするもので、あくまで適正化を進めるための取組である。
外部委員	「補助対象(交付先)の適正化」とあるが、補助金の出し過ぎや運営補助の見直しといった、個別案件の見直しのガイドラインに適合するかどうかを見て検討していきたい。
議 長	<p>前回の意見を踏まえ、見直しの本来的な目的を分かり易くした。</p> <p>提案公募型補助金については、テーマ設定のあり方、委員会の運営のあり方、補助回数のある方について、今回いただいた意見を参考に成案としていきたい。</p> <p>既存補助金の見直しについては、一定の方向性をご理解願えたので、見直し手順について作業部会で検討していくこととする。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>